

担い手・援農システムの構築

【平成26年度愛媛県普及現地事例情報（南予地方局産業経済部八幡浜支局地域農業室）】

[抄録]

当管内は、全国でもトップクラスの温州みかんを始めとした柑橘ブランド産地であるが、担い手不足や農業者の高齢化により、生産量は10年前に比べ1万トン少なくなり、耕作放棄地や鳥獣被害の増大により生産意欲も減退している。こうした中、関係機関連携の下、平成26年3月に「西宇和みかん支援隊」を結成し、11～12月の農繁期の雇用労働力の確保だけでなく、将来の担い手づくりに向けた活動を展開している。

[本文]

1. 事例場所の概要

西宇和は四国の西南部に位置し、日本随一の細長い佐田岬半島と付け根部分が含まれます。地形はリアス式で、沿岸部では温暖な気候を生かした柑橘栽培が基幹産業となっています。柑橘栽培面積は約3,500ha、主力の温州類100億、中晩柑類50億(平成25年)の生産規模を保持し、西宇和みかんは全国のプライスリーダーであり、全国屈指のブランド産地を形成しています。

2. 活動対象及び概要

八西地域農業振興協議会を推進母体とした「西宇和みかん支援隊」を立ち上げ、県・関係市町・JA・生産者団体が一体となって、担い手の確保・育成・定着及び援農者の確保をシステム化する。

3. 背景・指導・ねらい

当管内は、温州みかんを始めとした柑橘ブランド産地を形成しているが、担い手不足や農業者の高齢化により、耕作放棄地や鳥獣被害が増大し、生産意欲の減退とともに収入も少なくなる負のスパイラルに陥っている。

こうした中、八西地域農業振興協議会を推進母体とした「西宇和みかん支援隊」を立ち上げ、11～12月の農繁期の雇用労働力の確保だけでなく、将来の担い手づくりに向けた活動を展開するために関係機関を誘導し、真穴ふるさとアルバイト事業やお手伝いプロジェクト等と連携しながら、西宇和の援農システム構築を目指しています。

4. 具体的データ

(1) 情報の内容・方法・特徴

担い手は、全国レベルや県内で開催される就農就業相談会に参加し、新たな候補を確保するとともに、担い手育成支援モデル集落において定着に向けた活動を展開している。また、

アルバイトの確保は、HP、Facebook 等のネットや新聞広告等の媒体を活用するとともに、真穴アルバイト事業等の既存事業に加え、関係 JA や企業とのワークシェアを展開し、雇用に繋げている。

(2) 成果

平成 26 年度 八西地域における援農者確保状況(農家個々の雇用除外・1 月末現在)

- ・八幡浜お手伝いプロジェクト(有償ボランティア) 73 人 105 人役
- ・真穴みかんの里アルバイト(ホームステイ) 157 人 4,710 人役
- ・大学連携援農システム(無償ボランティア) 68 人 137 人役
- ・無料職業紹介所 34 人 680 人役
- ・JA にしうわ農作業支援事業 13 人 1,345 人役

この他、担い手確保のステイ事業やモデル集落での担い手確保等で合計 360 人 7,000 人役を雇用している。

(3) 普及活動上の留意点

- ・援農者の受け入れについては、宿泊施設や交通手段が問題となるため、スムーズなシステム稼働においてはこれら受け皿づくりの課題解決が求められる。
- ・担い手定着においては、農地、倉庫、機械、車両等の資本装備を確保するリスク軽減が必須であり、1 経営体での受け入れではなく、グループや地域ぐるみでのシステムづくりが肝要となる。
- ・多様な援農者を確保すれば、作業能力に格差が生じるため、就業前の事前研修カリキュラムを充実させて援農者の作業能力の平準化に努める。
- ・雇用側は、スムーズなマッチングとリピーターの確保を目指して、就業しやすい快適な職場づくりに努めるため、労務管理や SP 設置、園内作業道設置等、省力化に向けた取り組みに努める。